遠州流
華矩
坤

No. 343
$
A z

377

Y. 343 Two Volumes. "Kaku" by Soseki.

蓮

中嶌 蕙齋

萩朝皃

山尾 仲業

梅

川越 左門

芍薬

岡本 久馬

水仙

前田 素曉

柳芍薬

瀧本 文吉

牡丹

僧 由卜

牡若

松波 芝崇

柳椿

平出 桃宇

馬藺

砂田 亀柳

杜若

山尾 仲業

梅蝶

木下 鐵齋

馬蘭
鵜野蘭松

柳菊
中嶌亀偶

射干

紀伊馬 月映

菊

中川 可柳

藤

初田 亀柳

牡丹

小林 千切

梅

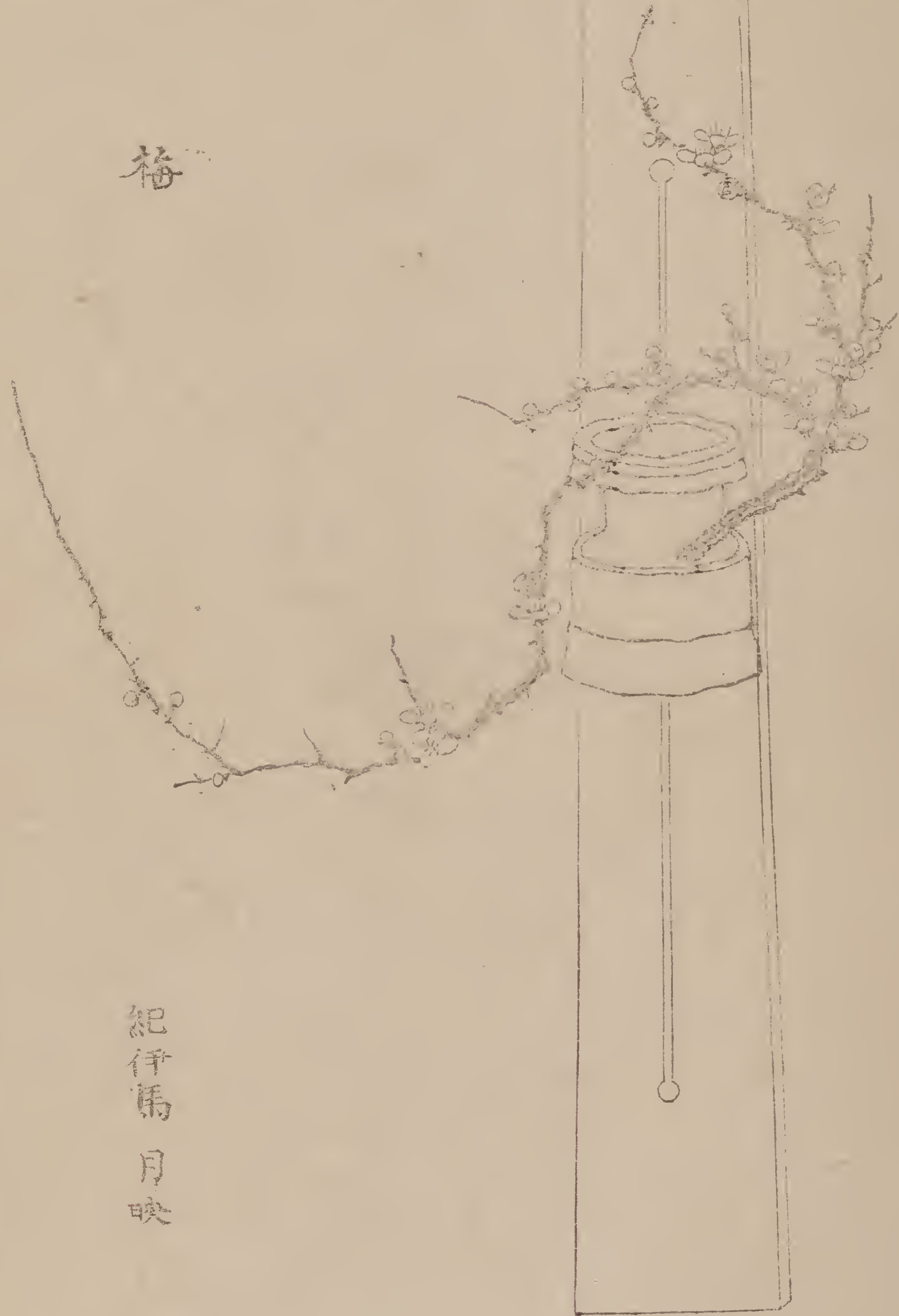
紫苑

高谷 吾伯

柳椿杜若

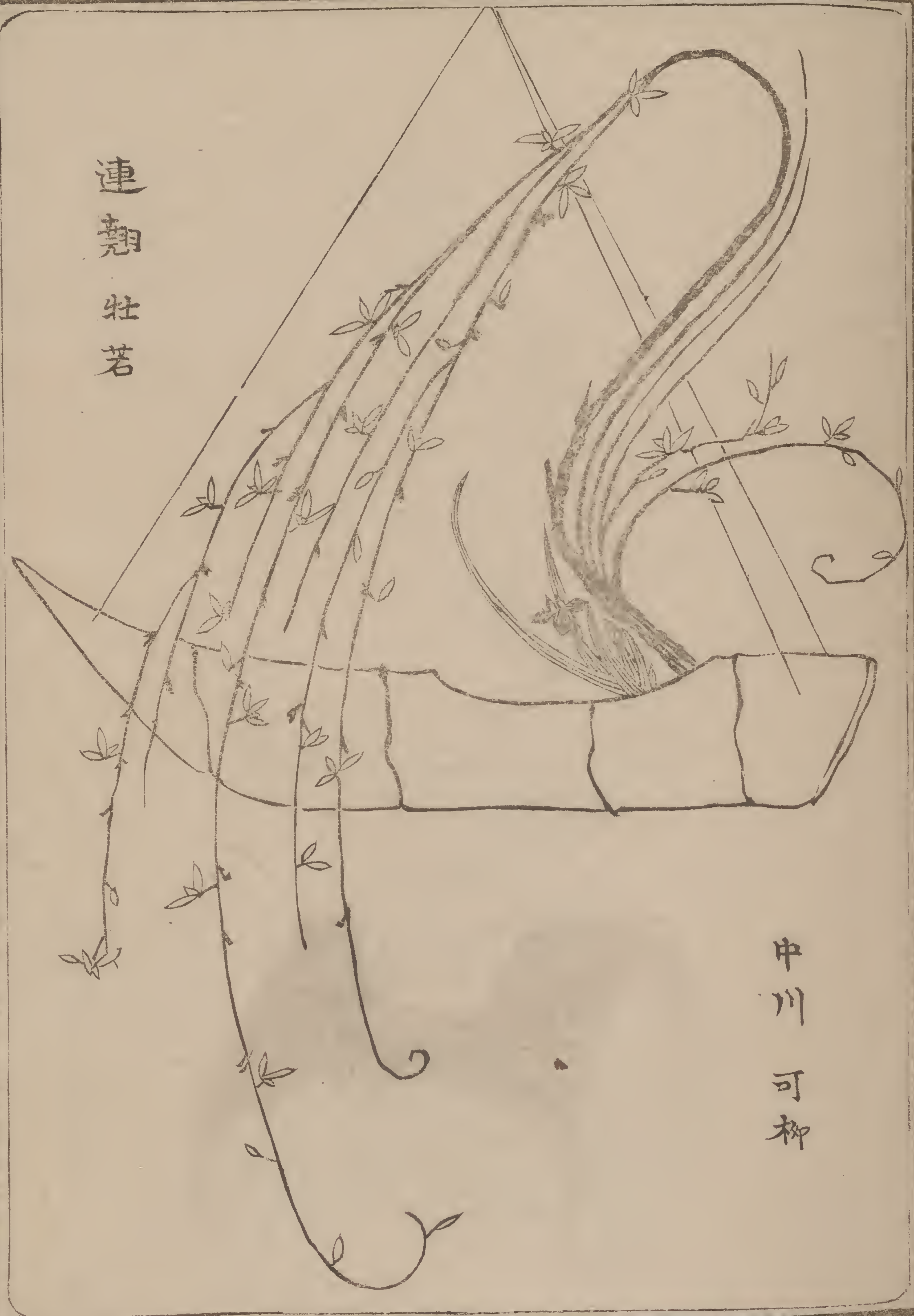
佐川 真泉

梅



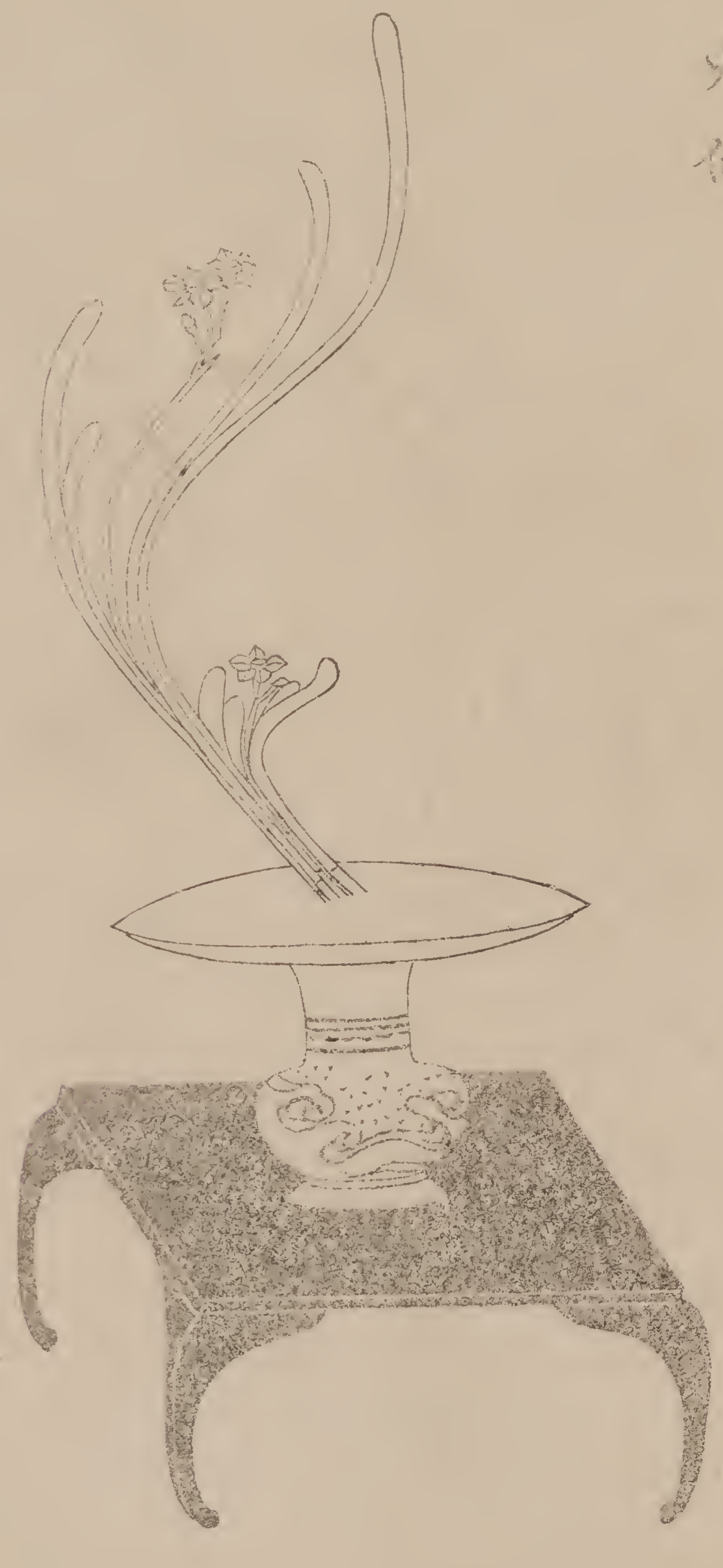
紀伊馬 月映

連翹 牡若



中川 可柳

水仙

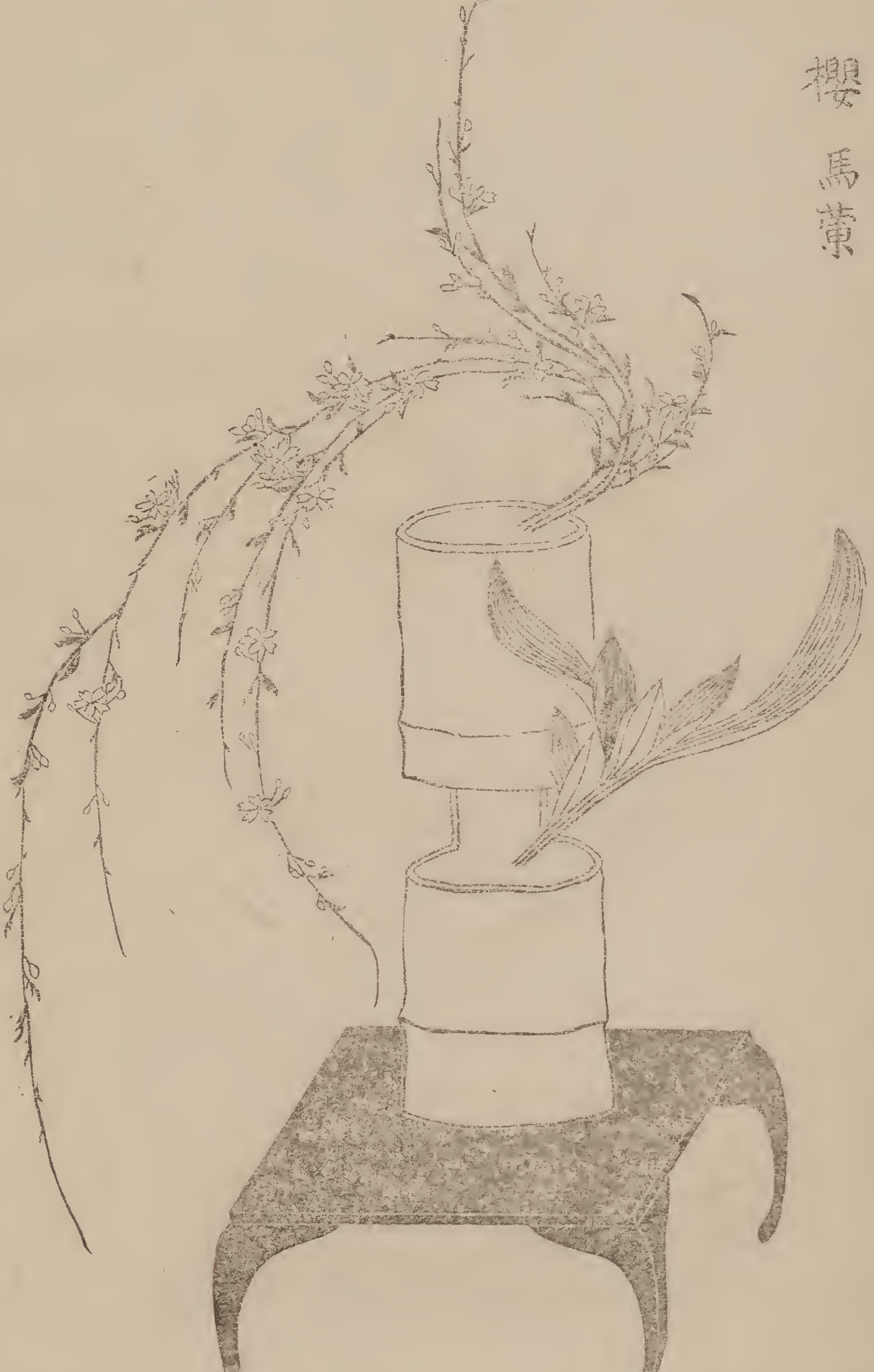


窪田 月齋

芍薬

比良 蒼僊

櫻 馬蘭



川越 左門

山吹

宗碩妻　桃子

紫菀

中塚　悠雅

柳水仙

岡本 文齋

右諸侔挿花諸の数十瓶は畫工をしてうつさしむ
もとより一とせ一たひ細斎の風流に技芸ハ彩画のみならず
諸ふる事に至るまで唯挿花乃麗をとりかはれ給ひなる事畫師
よりも挿花をも宏く諸流を学ひしも其の師なるものの子孫に至るまで
暁らしし宝年を亦多ふ足りて道家田舎に読して
とも伝を問ひ候細に詳密いたさざる处なく深く帰心
学ひ給ひ年の道に数百の門人あり推されて尽く
道奥を極へらるる事々 恍惚とするに物にして四方の法

川骨
於明福寺六月十五日挿之

是迄も人々千枚會せしけるをあつめ其
家の事ハ後人爲を労せんとして筆とりかへしを輯せしむ

京師會頭　橋本蘭領　謹誌

画師　廣田月齋

右扇面插法我門秘訣也凡木枝去幹艸莖斷根則華葉絶滋液之源忽萎凋也故插之瓶裏加水以養焉此通常插法而所圖于前之若干瓶即是也今所画于此者扇面無涓滴水二日二夜花葉莫爲萎凋此予之所插而宗甫君之所垂教也觀之亦宗甫君之奇幻於插花感嘆無辭矣

感鬼菴宗頤　誌

跋

柴田宗頤以插華鳴于世予嘗以爲插華者疎華葉矯枝朶反於造化之自然共於孺子之玩

弄也已然往適遇宗碩
話及挿華曰挿華之法
華葉從陰陽之數以稀
疎之枝朶從三才之數
以長短之見造化之眞

巧促雅客之文藻也其
他言之尤詳矣予初聞
之而不聽中漸欲聽之
終有感于心乃復以爲
雖有良材不由規矩而

其條直爲柱楹句曲爲
穹隆則宮室不成雖有
百華不由插法而華葉
以稀疎之枝朶以長短
之則不足以觀矣物皆

豈唯待造化之自然得
爲其肖哉予往所言者
過矣今宗碩圖画其門
人所插之若干瓶以上
梓而公于世使後進便

於插法意匠也故予恐
有世人如予之往以爲
插華者疎華葉矯枝朶
反於造化之自然共孺
子玩弄而欺誣後進

者乃題數言於卷尾併
謝宗碩

文政戊寅孟冬无量居
士天然書